新刊紹介

A STAR ATLAS and Ref rence Book(Epoch 1920) ,for Students and Amateurs, by Arthur P. Norton, B.A. London, 1927.

之れは卽ち吾が讀者諸氏にも好く知られてゐるノルトンの星圖の第四版增補版である.(百濟氏の言によれば,此のノルトンの第一版を手に入れたのは,日本に於いて自分が最初であるさうだが,こんどの版も,自分は今1927年4月15日に入手したから,やはり之れが日本で最初でないかと思ふ.)ノルトンの星圖は,最も大切な星の圖其のものが大變巧妙に計畫されてゐて,他の如何なる星圖よりも便利であることは皆人の認める所である.例へば,圖が皆極めて鮮明であること,全天の別け方が,兩極部と,赤道部とに分けられてゐて,殊に赤道部は,各赤經について北緯60度から南緯60度まで一續きに續いて畫かれてあるため,或る程度までは星の chart (一枚圖)の用にも使はれて好い.1等から6等までの星を圖に畫くのに,他の圖では,上下左右に色んな枝や御光を出して光度の區別を表はしてゐるが多いけれど,此のノルトンでは總て星を只簡單な黑點とし,光度は黑點の大きさで表はすを原則とし,只其れに,眼に付かない程度の技巧を加へた,——此のデザインは總ての星の形の uniformity と光輝の大小の continuity とを表はす立場から考へて,非常に好い感じを與へる.ノルトンには又,卷頭に可なりのページを割いて,天文觀測上の必要事項(星や星座の名稱や,天球學上の諸種の學術語,日月諸遊星や恒星や彗星流星等の簡單な說明,諸種の望遠鏡と其の部分品其の取り扱ひ方など)を,可なり親切に記述してあるから,之れ等が初學者に便利であることは言ふまでも無い.

ノルトンの第一版には多少の誤りがあつた.殊に星や星雲の位置など(他の星圖にも之れくらゐの誤りは普通に有り勝ちであるが)の誤りが著しかつた.

其れを,第二版,第三版と,版を重ねるにつれ,原版に無理で無い程度に修正した.ところが,こんどの第四版は更に此うした修正を完全に施し,尙ほ,卷末には珍らしくも銀河座標による星圖を2枚添えて,大にハイカラなものとした.それから又,こんどは卷頭の說明文の部を非常に增補改良した.此の部は,以前には18ページであつたが,第四版で一躍して之れが48ページになり,活字も小さく,行の數も著しく增したため,全體の分量は元のものの5倍にも增してゐる.だから,之れは最早や一かどの教科書であるとも言へる.此の中の新材料は Burns, Comrie, Doig, F. de Roy, Denning 等が加勢したらしいから,信賴も出來るわけである.——たゞ,しかし,第一版の最初から,自分が之れを見て心がゝりな一事は,著者 Norton 其の人の素性であるが,之れは今も尙ほ自分は知つてゐない.とにかく,ノルトン氏は professional な天文家でないらしい.多分,自修自學によつて練へ上げた所謂 amateur astronomer なのだらう.だから,或る點から見ると,此の星圖は全體として,見事な出來ばえで,誠に氣のきいたものであるが,しかし,好く見ると,所々に變な言葉遣ひがしてある,Star sphere だの Heat Index だの,Parallax in Altitude だの,Tangential Velocity だの,Absolute Magnitude Parallax だの,Statistical Parallax だのといふ言語は殆んど誰も使はない——むしろ,意味不明瞭のきらひがある.又,Harvard(photometric)magnitude が一種の Photographie scale であるなどと記したり,星の Right Ascension が precession のために0^hから24^hまで變動するなどと記してあるのは,何れも誤りである.

しかし,まあ,此うした數點を除外すれば,ノルトンは,やはり,好い星圖である.自分は幾册も買ひ込んで,今後も永く草紙に使ふつもりである,(丸善で價5圓75錢)——(山本)

ASTRONOMY, a Revision of Young's Manual of Astronomy. 2Vols.
I. The Solar System. pp. xi+(1—470)+xxi.
II. Astrophysics and Stellar Astronomy. pp. xii+(471—932)+xxx.
By H.N. Russell, R.S. Dugan, and J.Q. Stewart.

去る3月9日，米國から自分の所へ小包郵便物が屆いた．開けて見れば其れはラッセル教授から贈られた上記の新著書であつたのである．自分は之れを見て，一寸，意外に感じた．それは，去る1923年12月29日の午前，米國天文學會の第31回總會がミスFurness のVassar College 天文臺で催された其の三日目．「天文教育」の題の下に討議會が行はれた席上．來會者一同はプリストンのラッセル教授に Young の名著 General Astronomy を revise して貰ひたいと希望し，Russell 氏は一應それを承諾したことが有るので，自分は實の席に居たので今も尙よく覺えてゐる．（天界第42號 第243頁參照）．だから Russel 氏は全く General Astronomy に手を入れてゐることと思つてゐたのである．しかるに，今到着したのは General Astronomy でなくて，Manual の方である——尤も，よく考へて見れば，始めから教科書として作られた Manual の方を改版するのが General Astronomy の方よりも急を要するのであるとも考へられるし又，仕事も容易なのであらう．とにかく Young が Princeton 大學教授時代に書いた四名著 Elements, Lessons, Manual 及び General Astronomy は各々其の特徴によつて何れも廣く讀まれ，ものであるが，しかし，著者 Young が死んでから今は早や殆んど20年にも近いのであるから，進歩の著しい天文學の書物としては是非書き直す必要があり，書き直すとすればそれは，Young の後繼者として Princeton 大學にゐる Russell 教授が最も適當であるとは萬人が考へる所なのである．

さて此の新しい "Manual" を見るに之れは決して單なる revision では無い．三人の著者たちも序文で書いてゐるやうに，之れは寧ろ原著よりも非常に擴大されて，「Manual と General Astronomy との中間に位するものである」と言つてゐる程である．即ち，之は一册であつた Manual が，今こゝでは二册となり，全卷を通じて實に1000 pages を超えてゐる．活字は誠に讀み心地好い程度の大きさで多少込み入つた文は少しく小さな文字が使つてあり，皆鮮明で，見事である．紙も上等であるし，中の寫眞や凸版も可なり代表的なものが選ばれてある．只時々此等の寫眞凸版が餘り小さ過ぎて，惜しい氣持ちのするものも無いでは無い．（一體に理學書の挿畫は大きい方が好い——鮮明なためにも，美的なためにも，）第22圖，第49圖，第111圖，第141圖，第190圖，第208圖，第302圖等は殊に左樣である．此の書の特徴は第2册にあると言つてよからう．現代の天文學教科書として應はしいために，此の第2册全部が天體物理學のために費されてゐるのは，今までの諸家の天文學書に例を見ないものであつて，殊に，さすがに Russell 氏が主筆を振つてゐるため，恒星の物理構造論や，進化發展論，乃至，宇宙論などの記述のし方には專門家と雖も，讀んで大に教へられる所がある．之れに比べると，第一册の方は，御座なりの書き方で，筆者に餘り氣乘りのしない點や，調査の不充分な點などが少なくない．引かれてゐる例證は多く米國製であるが，之れは止むを得ないのかも知れない．オランダの De Sitter 氏は Observatory 誌第638號に於いて．地球の扁球率（本書第1册第120頁）に1/296.92±0.14 を使つて貰ひたいと註文してゐる．日本の學者の名も只，平山淸次氏の名だけを揭げて，他を記さないのは物足りない．

しかし，とにかく特徴の多い此の書物は，最近英文で書かれた最上のものとして，獨文の Newcomb-Engelmann と匹敵する大著であり，近い將來の標準書であらう，價は各々2ドル38セント（山本）

◎**附錄天文語彙**は都合により本號は休み．